

## 16. 第 14 回 MSJ-SI (2021 年度) 開催 報告書

● 第 14 回日本数学会季期研究所「New Aspects of Teichmüller Theory」

● 日時：2022 年 7 月 19 日～22 日，25 日～29 日，2023 年 7 月 10 日～14 日

● 会場，開催方法：学習院大学 100 年記念館，東京大学大学院数理科学研究科大講義室にて，Zoom による同時配信も行う。

● 組織委員：大鹿健一（学習院大学，委員長），河澄響矢（東京大学），山田澄生（学習院大学），逆井卓也（東京大学），石橋典（東北大学）

● 講演者：2022 年には連続講演 (mini-course) を行った。講演者は，Athanasios Papadopoulos (Strasbourg)，Joan Porti (Barcelona)，Jean-Marc Schlenker (Luxembourg)

2023 年には workshop を行った。講演者は，Ara Basmajian (CUNY)，Richard Canary (Michigan)，Tsukasa Ishibashi (Tohoku)，Hiroki Ishikura (Tokyo)，Kohei Iwaki (Tokyo)，Hiroaki Karuo (Gakushuin)，In Kang Kim (KIAS)，Sang-hyun Kim (KIAS)，Cyril Lecuire (ENS Lyon)，Hidetoshi Masai (Titech)，Chikako Mese (Johns Hopkins)，Mahan Mj (Tata Institute)，Dounnu Sakaki (Gakushuin)，Ser Peow Tan (Singapore)

● 参加者：現地在 58 名，Zoom が 29 名

● web page：https://sites.google.com/view/msj-si-teichmuller/home

● 概要：元来 2021 年に予定されていた第 14 回 MSJ-SI であるが，コロナ禍による外国人講演者の来日の困難さと，参加者の安全性を考慮して，2021 年時点で，延期の決断をした。日本への入国が制限されていた 2022 年の夏には講演者を 3 人に絞った連続講演 (mini-course) を行い，2023 年の夏には研究集会 (workshop) を行った。2 年にまたがるプログラムにすることにより，参加者の分散を図ると同時に招待講演者の来日がしやすい工夫をした。

2022 年時点では，海外からの講演者の入国には visa や検疫を始めとする手続きが必要であったが，結果的には大きな問題を生じることがなく講演を行うことができた。ただしこの年は現地での参加者はごく限られたメンバーのみとならざるを得なかった。

2023 年においては，ほぼ通常の集會に近い形に近づけることができた。いずれも Zoom による講演中継を行い，Zoom での参加者も自由に質問ができるシステムを作ることができた。（東大数理における Zoom システム構築と中継作業では麻生和彦氏に大変お世話になった。）また 2023 年の workshop では，若手研究者による poster session も行った。

2022 年の連続講演は，各講演者に 1 時間講演を 5 回お願いした。大学の事情から会場が前半は学習院大学の講堂，後半が東大数理の大講義室と途中の移動が必要となったが，講演者たちは会場の特性を考えた上での準備をしてくれて，問題なく講演を行うことができた。各講演者とも，聴衆の分布を考慮して，初歩から始めて最先端までに至るわかりやすい講演を行ってくれた。2023 年の workshop の方は通常の国際研究集會に近い形で，90 分講演，60 分講演，30 分講演を混ぜてプログラムを組んだ。いずれも講演者が行っている最新の研究を要領よく解説したものであった。

通常 MSJ-SI で行ってきた韓国，台湾の若手研究者の招待，参加者の懇親会，excursion などの行事は全く行うことができなかったが，本来の講演自体は上記のように，皆よく準備された高水準のものであり，また質疑応答なども活発に行われ，国際研究集會としてこの状況の中で期待できるものとしては十分の出来であったと自負している。

なおこの研究集會の講演を中心として，proceedings を ASPM から出版する予定である。

（組織委員長 大鹿健一 記）